

悪の 付箋

悪の問題 The Problem of Evil

ヨハネの手紙三 11節a

愛する者よ、悪いことではなく、善いことを見倣ってください。

ヨハネによる福音書	5:29 <u>善を行った者は復活して命を受けるために、悪を行った者は復活して裁きを受けるために出て来るのだ。</u>
ローマの信徒への手紙	12:17 だれに対しても悪に悪を返さず、すべての人の前で善を行うように心がけなさい。
ローマの信徒への手紙	12:21 悪に負けることなく、善をもって悪に勝ちなさい。
コリント信徒への手紙Ⅱ	5:10 なぜなら、わたしたちは皆、キリストの裁きの座の前に立ち、善であれ悪であれ、めいめい体を住みかとしていたときに行ったことに応じて、報いを受けねばならないからです。
テサロニケの信徒への手紙Ⅰ	5:15 だれも、悪をもって悪に報いることのないように気をつけなさい。お互いの間でも、すべての人に対しても、いつも善を行うよう努めなさい。

聖書に登場する「善」と「悪」

	聖書全体実数	旧・新	実数	旧約:新約=3:1	聖句割合
善	208 / 229 聖句 回	旧約	85 / 94	85 / 94	24%
		新約	123 / 135	369 / 405	
悪	900 / 1024	旧約	616 / 689	616 / 689	76%
		新約	284 / 335	852 / 1005	

	罪 (Sin)	悪 (Evil)
定義	神の基準を破ること	道徳的・倫理的に邪悪なもの
本質	神との関係の破れ	邪悪な性質や行動
範囲	人間の行為や性質に焦点	霊的・社会的・自然的な影響も含む
原因	人間の選択や堕落	サタンの影響、罪の結果
例	偶像礼拝、不信仰、憎しみ	サタンの働き、暴力、戦争、欺き

- ✓ 罪とは法に背くこと(1ヨハネ3:4)
- ✓ 悪は「もっと広い、すべての悪いこと」(サタンの影響や災害なども含む)
- ✓ 罪を放置すると悪が広がる

悪は、神が私たちに正当な理由で与えてくださった自由意志を、私たちが悪用した結果である。→【悪】=【自由意志の悪用(誤用)】

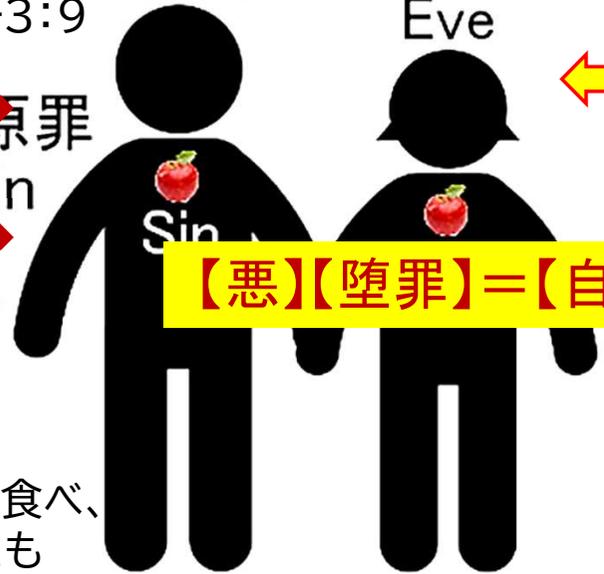


ヨハネの手紙一3:9

~~NO~~ ~~原罪~~
~~original sin~~
~~NO~~

Adam

Eve



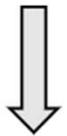
創世記1:26ab
神は言われた。「我々にかたどり、我々に似せて、人を造ろう。Let us make man in our image, after our likeness.」

【悪】【墮罪】=【自由意志の悪用(誤用)】



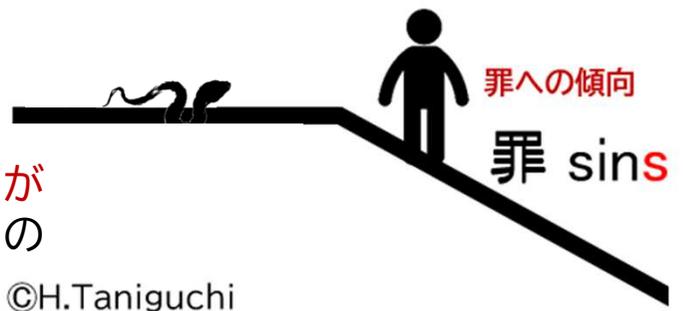
創世記3:6b
女は実を取って食べ、一緒にいた男にも渡したので、彼も食べた(上図)。

⇒ ⇒ ⇒ ⇒ 【エデンの園を追放】(創世記3:24)
神と人間との間の完全な関係の断裂



罪の侵入【罪への傾向】

ローマ5:12 このようなわけで、一人の人によって罪sinが世に入り、罪によって死が入り込んだように、死はすべての人に及んだのです。すべての人が罪を犯したからです。



©H.Taniguchi

SDA (エレン・G・ホワイト) は、アダムとエバの罪によって人類が墮落し、その結果、全人類に**罪の傾向 (罪の性質 sinful nature)** (人類は「罪を犯しやすい性質」を持つようになった—罪に傾きやすくなった—が、神の恵みによって選択の自由は保たれている) が受け継がれたと述べている。人間は**罪の傾向**を受け継ぐが、それ自体が個々の人の罪とは見なされず、むしろ罪を犯しやすい状態にあるという理解です。つまり、カトリック神学や一部のプロテスタント神学のように「**遺伝的に罪の責任を負う**」という考えではなく、「**罪の傾向 (罪の性質) を受け継ぐ**」という立場をとっています。

→ SDAは、原罪の概念を認めつつも、それを「**アダムの罪の結果としての墮落した性質の継承 (人類は罪深い性質を持つようになった)**」と捉えます。ただし、カトリックのように「**罪そのものが遺伝する**」「**生まれながらにして罪を持つ (∴幼児洗礼が必要)**」とは考えていません。また、カルヴァン主義のような「**全的墮落 (Total Depravity)**」の概念を否定し、人間にはまだ神の恵みに応答する能力が残されていると考えています。SDAの教義では、人はアダムの罪の責任を直接負わないとされています。つまり、人は生まれながらにして「**罪の傾向 (罪の性質)**」を持っているが、個々の罪については個人の選択と責任がある (個々の選択によって罪を犯す／生まれた時点で罪を負っているのではなく、罪を犯す選択をした時に罪が成立す／個々の人が責任を負うのは自ら罪を犯した時)と捉えます。

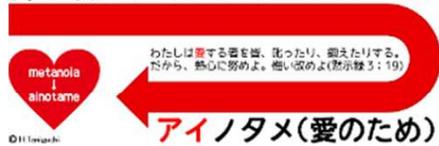
エゼキエル書 18:20 (子は父の罪の責めを負わない)

→罪を犯した本人が死ぬのであって、**子は父の罪を負わず、父もまた子の罪を負うことはない。**正しい人の正しさはその人だけのものであり、悪人の悪もその人だけのものである。

罪の除去 「主よ、いつまで・・・？」

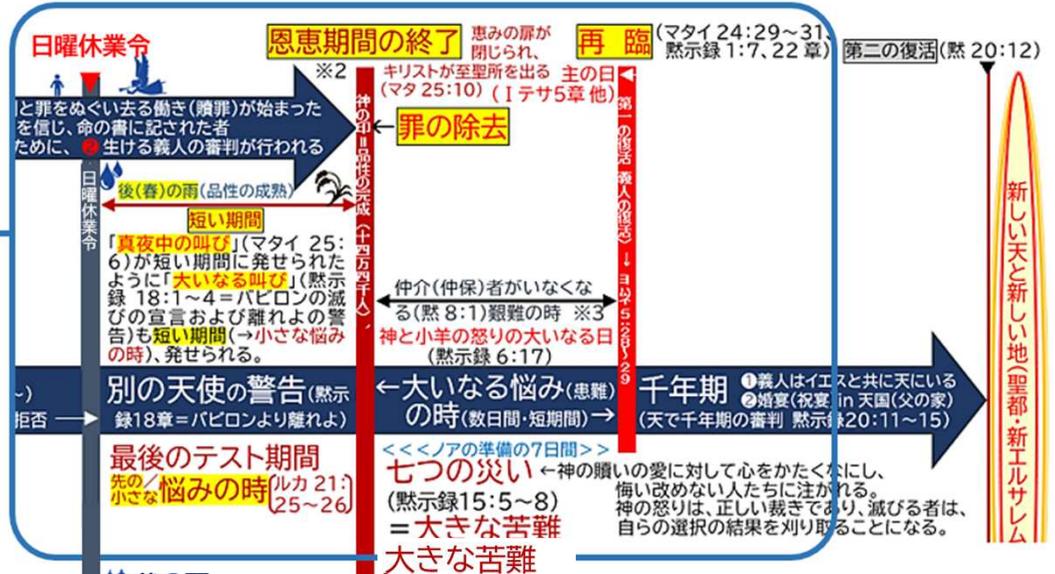
- 日曜休業令 ➢ 生ける者の裁き ➢ 後の雨(品性の成熟)
- 罪の除去 = 神の印(⇔ 獣の刻印) = 144000 人の出現
- 恩恵期間の終了
- 大いなる悩み
- 再臨 ➢ 千年期 ➢ 新しい天と新しい地

悔い改め(メタノイア metanoia)



罪の赦し

天の記録の書に記されている罪は二重線が引かれ、キリストの血の刻印が押され赦されても、罪の記録はそのまま残されている。



天の記録から 罪の除去がされる

●大祭司は、最後の贖いをするために至聖所に入った。 →レビ記 16:30 なぜなら、この日にあなたたちを清めるために贖いの儀式が行われ、あなたたちのすべての罪責(口語訳:もろもろの罪)が主の御前に清められるからである。 希望への光 P.182、人類のあけぼの上巻 P.422

ヨハネの手紙一1:9

自分の罪を公に言い表すなら、神は真実で正しい方ですから、罪を赦し、あらゆる不義からわたしたちを清めてくださいます。

神は愛の奉仕だけを望まれるため、サタンを直ちに滅ぼさず、彼の主張を展開させることを許された。それは、**全宇宙の被造物が、罪の本質とその恐ろしい結果を理解し、神の統治の正しさを納得するためだった。**

もしサタンがすぐに滅ぼされていたら、人々は愛ではなく恐れから神に従うことになったかもしれない。

サタンの反逆の結末が明らかになることで、神の公平さや律法の正しさが証明され、罪の恐ろしさが全宇宙に示された。

こうして、清い者たちが再び罪に陥らないよう守られ、永遠に神の統治の下で幸福を得ることができるようになるのである。



【参考】 懐疑論的有神論(懐疑的な有神論)

神の存在を信じつつ、人間の理解力には限界があるため、悪が存在する理由を知ることはできない、とする理論。

特に「悪の問題」に対する応答として使われますが、過度な懐疑主義(物事の存在や価値などを信じない考え方)に陥る危険性も指摘されている。

①神の存在を信じる。=神は存在し、全知・全能・完全に善である。

②人間の理解力(認識能力)には限界がある。

=人間が神の意図を十分に理解できるはずだ」という前提を疑問視し、神の行為が合理的であるかどうかを判断する能力が人間にはない。

③私たちが「悪」と見なすものが、実は神の視点から見れば正当な理由があるかもしれない。

=例えば、子供がワクチン注射を嫌がっても、それが健康のために必要であるように、私たちには理解できないが正当な理由がある可能性がある。

④神の計画や目的を人間が理解できるとは限らない。

【参考】自由意志弁護論

神が全知・全能であるのに、なぜ悪や苦しみが存在するのかという悪の問題に対する弁護として提唱された理論。

①神は人間に自由意志(自由な選択の能力)を与えた。

これは、道徳的価値のある善を選択する機会を人間に与えるためである。

②自由意志には悪を選ぶ可能性が含まれる。

悪の存在は自由意志の結果であり、神が直接的に悪を創造したわけではない。

③自由意志の価値は高い。

もし神が人間を完全に善しか選べないように創造したとすれば、それは「ロボット」を作ることになる。

神が真に愛をもって人間を創造したのであれば、人間に自由を与えることは当然。

※自由意志弁護論は、人間の道徳的悪(戦争や犯罪など)には説明がつくが、自然災害のような「人間の意志とは関係のない悪」に適用するのは難しい。

※神が全知全能なら、人間が常に善を選ぶようにできたはずではないか？という批判もある。